

参議院議員 松沢 成文

**○松沢成文君** 今日、私はオリンピック・パラリンピック東京大会の準備について幾つか質問したいと思います。

まず、オリンピックといえは、その象徴は聖火であります。古代オリンピックの発祥の地、ギリシャのオリンピアから採取して、その聖火が運ばれてきて、聖火の開会式での点火というのはハイライトになるわけですね。ただ、東京大会においては、この聖火台というのをどこに置くか、どこに造るのかというのが全くこれまで議論忘れてきちゃったという大失態を犯したと私は認識しています。

聖火台というのは普通、国立競技場の中にあるというふうになりますから、それを造るのはJSCであり、その責任は文科省にあるわけですね。ところが、聖火台というのはオリンピックのための聖火台ですから、そういう意味では組織委員会が責任を持つべきだという意見もあると、こういう責任のなすりつけみたいな報道も出ていました。

そこで、組織委員会の会長の森喜朗先生は、この問題の悪いのは馳浩だと、こう呼び捨てで指摘されています。ということは、組織委員会の会長が、悪いのは馳浩だと言うことは、責任は文科省、JSCを所管している文科省にあるんだというふうに言っているようにも見えるんですが、この聖火台の設置問題についてはどこが責任を負うんでしょうか。JSCと文科省なのか、あるいは組織委員会なのか、お答えいただきたいと思います。

**○国務大臣（馳浩君）** 二〇二〇年東京大会の聖火台に関しては、新国立競技場の整備計画については遠藤オリンピック・パラリンピック担当大臣です。実際の整備事業は、JSC及びこれを所管する私、文部科学大臣にあります。聖火台の活用を含む二〇二〇年東京大会のセレモニー等の企画運営は組織委員会であります。それぞれの立場で責任を有しておりまして、今後ともお互いに連携を図ってまいりたいと思います。

森会長が私のことを呼び捨てにした問題については、これは委員も御存じのように、森会長と私の長い長い人間関係の中での叱咤激励と受け取っておりますし、同時に、あの馳浩呼び捨て事件の裏にあるのは、重要な問題は連携を取りながら進めていかなければいけない、連携を取るのには、オリンピックを開催するのは東京都、新国立競技場の

今現状の責任者は遠藤オリパラ担当大臣、しかし所有者というか、JSCが所有者ですが、それを所管しているのは文部科学大臣、そして運営するのは組織委員会、このそれぞれがこの聖火台設置の問題についてのみならず、あらゆる問題について常に連携、情報共有をしながら進めていかなければいけないということの示唆を与えたものだと、そういうふうに認識をいたしております。

**○松沢成文君** 連携を取るには、どこかが認識をされていて、ほかの関係の場所とも連携を取ってやっていきましょうというのが普通だと思うんですが、全てが忘れていたというのは、もうこれ指摘されない限り連携取れないわけですから、ここはちょっと反省をしていただきたいと思います。

そこで、IOCはこの聖火台については、まずできればメインスタジアムの中が望ましい、そしてスタジアム内の全ての観客から見える場所に設置することが望ましいというふうに規定されているというふうに聞いています。

さあ、これ、たしか新国立の基本設計が公になるのが四月の下旬と聞いておりますけれども、じゃ、現時点でスタジアムはこのIOCの条件を全うできる形になっているんでしょうか。消防法の関係で屋根に木材を使うからそこが難しいんじゃないかとか、いろいろ出ていましたけれども、いかがでしょうか。

**○国務大臣（馳浩君）** 聖火台の設置場所については、現在、御指摘のIOCガイドラインやこれまでの事例も参考にしつつ、遠藤大臣の下に設置されているワーキングチームにおいて検討されているものと承知しております。

また、聖火台の設置主体及び費用負担者については、聖火台の後利用などの観点も踏まえながら今後関係者間で検討されることとなっておりますが、ワーキングチームにおいては、新国立競技場の工費も工期も変更しないことが基本方針として確認をされております。

**○松沢成文君** しっかりと検討して早めに国民に知らせていただきたいと思います。

次に、東京オリパラ大会の総経費、費用ですね、これについても様々な報道が乱れ飛んでおります。報道というよりも関係者がいろんな発言をされているんですね。去年の七月、森会長は二兆円超すんじゃないかと。

これ、招致段階では、大会の運営費と、あと設備をちゃんと造っていかなきゃいけないこの設備費みたいなもの全てで七千三百億だった

わけですね。それが、もう組織委員会の会長は二兆円超すんじゃないかと。そして、舛添東京都知事は、豪華な外遊で乗りもいいですから、三兆円ぐらい必要じゃないかと、こういう発言もされています。

それで、去年の十二月は一部報道機関から、運営費だけでも、運営費というのは七千三百分の三千ですよ、招致段階では三千億円と言われていた運営費だけでも、その六倍の一兆八千億円になるんじゃないかと、こんな数字が乱れ飛んでいるんですね。それを受けて事務総長の武藤さんが、今精査中ですよと、これからしっかり精査をして夏頃までにはI O Cに報告できるようにしたいと思いますとかコメントを出していましたが、現時点でおよそどれくらいと見込まれているのか、オリパラ担当副大臣、富岡副大臣に来ていただきましたが、富岡副大臣は組織委員会の副会長でもありますからこうした議論をしっかりとやられていると思うんですが、いかがなんでしょうか。

**○副大臣（富岡勉君）** 松沢委員に質問にお答えいたします。

今おっしゃいましたように、それらの報道については承知しておりますが、大会経費については、現在、組織委員会において、東京大会成功に必要な業務の全ての洗い出しを行っております。組織委員会では、業務の洗い出しを踏まえ、大会開催経費の見直しについて、今年の夏頃にI O Cと調整できるよう作業を進めているところであります。

このため、現時点において東京大会全体に係る経費についてお示しすることはできませんが、大会に関して様々な要望がある中、組織委員会において、必要性の有無や更に効率的、効果的なものがないかなどについてしっかり精査し、大会に対する国民の信頼を損なうことがないように取り組む必要が考えており、政府としても、こうした作業が確実に進むように促してまいりたいと考えております。

**○松沢成文君** ちょっと細かい項目も聞きたかったんですが、時間がないのでちょっと飛びますが、三月三十一日、このオリパラ大会の費用負担とか役割分担をめぐって森組織委員会会長、遠藤オリパラ担当大臣、舛添東京都知事が三者会談を行って、費用分担の見直しもこれ協議したんですね。

でも、これ率直に、もう本当に国民の疑問として、全体の費用が分からないのになぜ費用分担の見直しの議論ができるんですかという話なんです。

例えば、全体、今まで七千億だったのが二兆円ぐらいになりそうだと。組織委員会が担当する大会運営費はこれぐらい集められるけれども、これぐらい増えちゃって、これはもう税金投入してもらわないと

やれないんだと、だから、東京都さん、この部分はやっていただけますか。初めてそこで話ができるのに、全体は幾ら大きくなるか全く分からないのに、費用負担の見直しとか役割分担、できるはずないでしょう。こういうところがまず全くおかしいんですよ。

ですから、副会長、会長に言ってください。やり方おかしいですよ。ですから、まず、このなぜ見直しが、まず全体の予算が示されていないのに見直しができるのか。どうですか、おかしいと思わないですか。おかしいと思ったら会長にしっかり言ってください。

**○副大臣（富岡勉君）** 確かに三月三十一日の三者の会談は、衆議院本会議において遠藤大臣より答弁申し上げたとおり、三者が定期的に直接会談し、情報を共有するなどの取組を通じ、大会の成功に向けて関係者が一体となって取り組むためのものとして行われたものであります。

また、その御指摘のように、この会談において東京都知事、組織委員会の委員長、オリパラ大臣が適宜三者で直接協議し、連携協力を促進していくことに合意したのは私も知っているところであります。

今後は、役割分担、業務分担の明確化等について、リオ大会の状況を踏まえながら、我々も横串を通すような会議を設けておりますので、このように先般の会談において具体的な費用負担、委員御指摘のように、きちんと詳細なものが出るような取組を行っていきたいと思っております。

**○松沢成文君** 副大臣、ロンドン大会では、大会の五年前に公的資金が幾らぐらい掛かるかというのを、たしか一兆六千億だったですけど、ちゃんと国民に公表して、それ以降、議会の委員会と監査局みたいなものがあるんですね、そこで、果たしてこれでいいのかというのを全部国民の前で議論をしてきているんですよ。

東京大会は、もう四年前なのに、全体像全く分からない。公的資金、だって、組織委員会のお金で足りなければ東京都が補填する、それでも足りなければ国が補填する。全部、これ税金ですよ。こういう形になっているのに、全くそれが明らかにされてないんですね。

森さんも、舛添さんも、もう二兆、三兆という、もう事前のアナウンス、うまく出しているわけですよ。膨大に掛かってしまうんだと、国民、覚悟してくれよとアナウンスしているわけですから、IOCに予算案を出す前に、国民に対して、だって、これは税の投入を当初の予想よりももっとももっと増やしてやっていかなきゃいけないんだから、きちっと国民にまず公表する必要があると思うんですが、そこはいか

がでしょうか。

**○副大臣（富岡勉君）** 委員のおっしゃるとおりだと思います。

我々は、今、東京オリンピック競技大会、東京オリンピックに向けた政府の取組として、本年一月二十九日に定期的にそういった取組を発表するような機会を設けております。

その中で御指摘のあったような点について協議をしていきたいと思っておりますが、いろいろな費用面での見積り等が、現在資材の高騰等で、的確に、決まったところから七年、刻々とそういう見積りが変わってくるわけでありまして、組織委員会等でもそれらを毎年毎年見直すということではなく、一応ざっくりとした値というのは把握するようにしておりますけれど、個々の項目については今現在議論をしているところだと御理解いただければと思っております。

**○松沢成文君** 時間がないので最後の質問にします。

これは馳文科大臣に伺いたいんですが、五輪の組織委員会なんですけれども、新国立の建設問題、あるいはエンブレムの問題、聖火台の設置問題、そしてまた今回の費用負担の問題でも、非常に不透明で、ある意味で放漫財政で、私は国民の不信感を買っていると思うんですね。私は決して個人攻撃するわけじゃないんですが、やはり大会組織委員会の私は人心一新すべきだと思います。

というのは、トヨタ自動車の豊田副会長が辞任されましたね。その理由はちゃんとお聞きになっていきますか。私は、豊田会長は、組織委員会の不透明性、放漫財政、こんなままでやっていて副会長として責任を負わされたらたまらない、そう思って辞めたんですよ、私はそう考えています。

今、森会長、これまで頑張られてきたと思います。しかし、もう年齢の問題もある、健康の問題もある。森会長自身も自分はオリンピックまでやるつもりはないと言っているんですね。それ一番困るんですよ、もうずるずるずるずるやっていて、やっぱりオリンピックの直前に辞められたりしたら。これはオリンピック成功させるための危機管理の問題なんです。ですから、大臣は、もう会長と師弟関係にあると言っているから、子分である大臣の方からきちっと親分に進言してあげないと。やはりオリンピックを成功させるためには組織委員会の人心一新が必要だ、森会長、本当にこれまでありがとうございました、あとは我々がきちっとやって、すばらしいオリンピック成功させますからと。

私は、会長も含めた人心一新をしていかない限りこの組織委員会の

体質は続いていくと思いますが、大臣としての見解をいただきたいと思いをします。

○[国務大臣（馳浩君）](#) 新国立競技場の建設問題、エンブレム問題等、また今回の聖火台の課題にしても、それぞれ国民から御批判があるということについてはこれは真摯に受け止めて、いわゆる関係者、連携取りながらしっかり進めていきたいと思っています。

森会長の問題については、このオリンピック招致が決まったのが二〇一三年、七年前ですね。この七年間の間に、あらゆるやっぱり状況は、我が国の経済状況もあれば国際的な動向も含めていろんな状況が変わり得ることがあります。そんな中で、招致委員会で約束したことがなかなか全て実現できるとは限らない状況になっていることはもう皆さんこれは御承知のとおりであります。そんなときに、I O Cと、また東京都と、また我々政府と連携を取りながら、一つ一つの課題に直面するたびに調整をして決断を下していく、そして、特にI O Cとの関係性においても森会長の果たすべき役割、発言力は絶大なるものがあります。

私の立場でいえば、命ある限り最後までしっかりやれと、こういうふうに私は督励しているつもりでありますし、同時に、もちろん心配しておるのは健康問題であります。健康に配慮しながらも、海外とのやり取り、出張、国内における各競技団体や各経済団体とのやり取りを非常に精力的にこなしておられますので、また今行っている業務をしっかりやっていたきたいと、そういうふうに思っています。

○[松沢成文君](#) 時間ですので、ありがとうございました。